

澁川一流柔術
無雙神傳英信流抜刀兵法

貫汪館会報

第66号

発行 貫汪館 発行日 平成二十二年十二月二十六日
発行人 森本邦生 広島県廿日市市宮内一四八〇

貫汪館居合道講習会

奥居合：「立つ事」

平成22年9月12日(日)廿日市市立七尾中学校において居合講習会が開催されました。例年になく猛暑の中、貫汪館門弟の他、遠方の方も参加されました。

今回のテーマは、奥居合「立つ事」として、英信流奥の立業の稽古をつけていただきました。始めに、森本先生から「今までの座業で、それぞれ各人のレベルで出来ている躰下を中心とした動きが、立った姿勢でも同様に出来るように心がけて下さい。」とお話がありました。その後、形の稽古に入る前に、英信流奥の立業で求められる日常生活とは違う質の高い動きと、特殊な想定を理解するため、先生が鞘木刀を用いて形の想定と手順を分かり易く説明して下さいました。

次に自分たちも同じ様に想定を確認した後、鞘木刀から刀に持ち替えて形の稽古を行いました。

しかし、先生の動きを理解したつもりでも、実際に立業で躰下を中心として動くことはとても難しく感じました。同時に、自分の座業での動きが如何に出来ていないかを知りました。

今回の講習会で、あらためて居合の奥深さ、自分の反省点を認識する事が出来、充実した一日になりました。

(文責 氏川 昌和)

明治神宮鎮座九十年

日本古武道演武大会

平成22年11月3日(水)、東京明治神宮西参道芝地におきまして、毎年恒例の日本古武道大会(日本古武道振興会主催)が開催されました。

この大会は、明治神宮での秋の大祭と重なり、「全国弓道大会」、「光輪洞合気道演武」、「百々手式」及び「流鏑馬」の奉祝行事が行われて、多数の外国人観光客や参拝者が見学に訪れます。

古武道大会の演武は、第一会場、第二会場に分かれ、北海道から広島までの56流派がそれぞれ演武を行いました。貫汪館からは、無雙神傳英信流抜刀兵法を森本先生が、澁川一流の演武を森本先生、竹本康祐、竹本治恵の3名が演武を行いました。本年も各流派から沢山の方が参加し、いつもどおりの見事な演武を奉納されていきました。

最近の演武会で感じるのは、各流派とも演武をほぼ規定時間内に終えらるることです。プログラムが予定どおり進行される事は、遠方から参加している方々にとって大変ありがたいことです。他方、残念なことに、演武を見学されていた一般の方の中には、演武中にもかかわらず、大声で私語を交したり、独自の解説を加える等の非常識な行為が見受けられました。演武者は真剣に演武をしています。一般見学者は、演武の妨げにならないよう節度ある態度を心掛けていただきたいものだと思います。

(文責 竹本 康祐)

貫汪館居合道講習会

「澁川一流柔術の居合・半棒術・大石新影流剣術」

平成22年11月14日(日)廿日市市立七尾中学校に於いて「澁川一流柔術の居合、半棒術、大石新影流剣術」の講習会が行われ、小春日の中、貫汪館門弟を始め遠方からも多数参加されました。

講習会が始まるにあたり、森本先生から「今日は沢山教えますが、手先で行わず根本を掴むよう心掛けて下さい」と、お話がありました。

まず、歩き方の指導をしていただき、次に斬撃について、木刀を用いて、斬りかかってくる相手を想定した説明をしていただいたりから講習に入りました。

最初に澁川一流の居合ですが、大森流、英信流と似たような動きもありましたが、柔術に伝わる居合なので柔術の技法が多数含まれており、いつもとは違う観点から居合を考えることができ、とても勉強になりました。

その後、半棒術、大石新影流の試合口、小太刀を学びました。

森本先生から最初にお話があったように、「手先で行わず根本を掴む」と同時に、いつも指導していただいているように「型の手順を追わない」よう心がけました。はじめて行う動きに戸惑いながらも、テーマを持って行うことで、いつもと違う発見のあった有意義な講習会でした。

今回教えていただいたことを、今後の稽古に生かして行きたいと思えます。

(文責 三崎俊広)



「日本古武道厳島神社演武大会」

平成22年11月28日(日) 厳島神社祓殿において、第21回日本古武道厳島神社演武大会(日本古武道協会主催)が開かれました。貫注館からは今年も澁川一流柔術の大人・子供の2組で参加させていただきました。

厳島神社演武大会に参加して

西川朋樹

私は、今回初めて厳島神社奉納演武会に参加させて頂きました。厳島神社の独特の雰囲気と海風の寒さも手伝ったせいか、順番を待っている間は非常に緊張していました。

しかしながら、1ヶ月前から『祓殿に入ってから出るまでの流れ』をイメージしていたことと、前日の稽古で『形と形との間も、相手から気を逸らさない』ことを兄弟子に教えて頂いたおかげで、演武の最中は、比較的集中できたと思います。

とは言え、気持ちとは逆に、体の動きが硬くなってしまうのは事実で、肩の力みが抜けず、臍下を中心とした柔らかい動きからはほど遠い、反省の多い内容でした。

先生や兄弟子の方々、他流派の皆様への演武を拝見させて頂くと、対峙した時の目付けや、無理無駄のない姿勢・体捌きなど、今までの自分に足りていないものを感じさせていた部分が多く、今後、稽古を続けて行くにあたり森本先生から、とても良い機会を与えて頂いたことを改めて感謝しました。

今回の演武大会での反省や学んだことを糧として、これからの日々の稽古に生かして行きたいと思えます。

厳島神社演武大会の感想

剣持 順司

私は今年の11月に貫注館に入門して、今回初めて日本古武道協会主催の厳島神社演武会の見学とお手伝いをさせて頂いたことが出来ました。

北は岩手から、南は沖縄までの32流派の方々が参加されていました。これまでに読んだ本等で知った名前の流派の方々の演武を実際に目の当たりにし、その迫力にただ圧倒されてしまいました。

そんな中、森本先生から「足の運び方、間合いの取り方などにも注意して見て下さい。見るのも稽古ですよ。」とお話をうかがいました。

稽古を始めて間もない私は、人の体の動きというものに対し、そこまでの意識を払って見ていませんでした。

この気付きにより、これから稽古をしていく上で、先生方の動きを注意深く見て、それを自分の中に取り入れるよう努力しなければとの思いを強くしました。

今回、この演武大会において、多くの他流派の演武を拝見出来た事はもちろんのこと、自分でも新たな目標を持つ事が出来、とても貴重な経験になりました。



平成二十二年貫注館稽古納め

廿日市天満宮奉納演武会

平成22年12月25日(土)、今年の稽古納めと、廿日市天満宮において奉納演武会がおこなわれました。引き締まった空気の中、稽古納めは8時半より七尾中学校武道場において、柔術と居合の合同でおこなわれました。

各人が決めた演武の形を集中的に稽古し、その後、廿日市天満宮に移動、参加者一同での正式参拝に続き、今年最後の演武を奉納しました。

森本先生の居合に始まり、子供たちの柔術、居合、大人の柔術と続き、最後に森本先生の柔術で奉納を終わりました。

一同が再整列した後、森本先生より、「稽古は続けることが大切です。各自が上達していく変化の過程には、緩やかな弧を描くように時間をかけて向上していく場合、そうではなく短い期間でも急激な進歩を遂げる場合がありますが、両者に共通することは、途中であきらめずに稽古を継続していることです。」

『続ける』事が上達の秘訣だということを中心に稽古に励んで下さい。

そう意味でいうと、居合の方々の中には確実に変化の兆しが見られる方がいらつしやいます。一方、柔術の初心者の方々は、ただ手順を追う事に専念し、見映えを良くしようなどと考えず、無心で動けるように頑張ってください」との総評をいただきました。

寒波の影響で、外の手水舎には氷が張るほどの刺すような寒さでしたが、本殿の中は、御厚意によりストーブで暖をとっていたので、凍えることなく無事に演武ができました。廿日市天満宮の皆様には改めて御礼申し上げます。

最後に、皆様、今年も一年間ありがとうございました。来年も宜しくお願いたします。御身体には十分にお気をつけて、よいお年をお迎えください。

(文責 濱村 多賀司)

